



འབྲུག་རྒྱལ་ཁབ་

ブータン便り

2019年3月8日
第7号

クズザンポーラ！最近は少しずつ日が長くなり、18時ごろ日が暮れるようになりました。公共機関の冬季期間は2月で終わり、3月からは終業時間が17時に戻りました。日本は花粉症の人にとってはつらい季節ですね。私もそうでしたが、ブータンでは今のところ症状がなくほっとしています。ヒマラヤ杉がたくさん自生しているはずですが、周りを見渡しても花粉症らしき人は見かけません。

さて、今号では、世界に類を見ないブータン観光政策と、先月開催された National Tourism Conference についてお伝えします。

ブータン観光政策

ブータンの観光を語るときに、まずはこの国の根幹となる国民総幸福量について説明する必要があります。

国民総幸福量 (Gross National Happiness : GNH)

GNH は先代の第4代国王が1972年に提唱し、その後現在に至るまでブータン国家建設の開発理念となっています。それは、経済成長を重視する姿勢を見直し、伝統的な社会・文化や民意、環境にも配慮した「国民の幸福」の実現を目指す考え方です。GNH理念に基づいた具体的な政策として、たとえば国土の森林面積を60%以上と定め乱開発を防いだり、公の場では伝統衣装のゴヤキラの着用を義務づけるなどして、自然環境や独自の伝統文化の保護・継承を図っています。

High Value, Low Impact

観光においては、“High Value, Low Impact”という基本方針のもと開発が進められています。“High Value, Low Impact”もGNH理念に沿った概念で、観光客ならびに国家や国民へ高い価値をもたらしつつも、自然環境や伝統文化への負の影響は最小限に抑えようというものです。

1974年に外国人観光客を受け入れ始めて以来、この方針を一貫して守ってきたために、ブータンは「世界最後の秘境」「地上のシャングリラ」と呼ばれる特別な観光地であり続けることができたのだと思います。この持続可能な観光開発を可能にしたのが公定料金制度というものです。

公定料金制度 (Minimum Daily Package)

外国人がブータンを旅行するためには、個人旅行・団体旅行いずれの場合も、現地または国外の旅行会社を通して申し込まなければなりません。その際、宿泊数に応じてブータン政府が定めた公定料金を事前に振り込み、着金確認後ビザが発給されます。具体的には1人1泊250米ドル（閑散期は200米ドル）で、公定料金は以下のものを含みます。

- 内国税 65 米ドル（国内のインフラ整備や教育・医療費、貧困削減に充填）
- 宿泊費（三ツ星ホテル）
- 食事代（1日3食）
- 政府登録ガイド代（標準は英語ガイド。日本語等他言語は別途追加料金。）
- 国内移動費（車と運転手。国内航空線利用時は別途追加料金。）
- トレッキング時のキャンプ設備、運搬代

ブータンは観光客が訪れるようなところに行っても、パンフレットはおろか看板すらないことが普通です。ですが、旅行中は全行程ガイドが同行するので、知りたいことはなんでも教えてくれます。また、国内の公共交通機関が未発達なので、専用車がないと効率的に観光することができません。そういったブータン旅行に必要なガイド、車、食事、宿泊が全部公定料金に含まれているので、旅行の予算は立てやすくなります。一方、一日当たりの旅行費用は近隣のアジア諸国と比べると高い水準にあり、バックパッカーのような低予算の旅行者が訪問しにくい国となっています。結果として、この制度が全体のインバウンド数の抑制や旅行者（いいお客さん）の選別につながっているともいえます。

この公定料金制度はインド、バングラディッシュ、モルディブ国籍者には適用されません。これら3国からの旅行者は Regional Tourist と呼ばれ、その他の International Tourist と区別されます。2018年のインバウンド旅行者数は、Regional が約20万人、International が約7万人でした。公定料金には内国税が含まれるため、国家歳入の面からは Regional よりも International Tourist の増加の方が望ましいといえますが、近年は Regional Tourist の伸び率が圧倒的に International を上回っている状況が続いているので、“High Value, Low Impact”をいかに保っていくかが課題となってきています。

課題

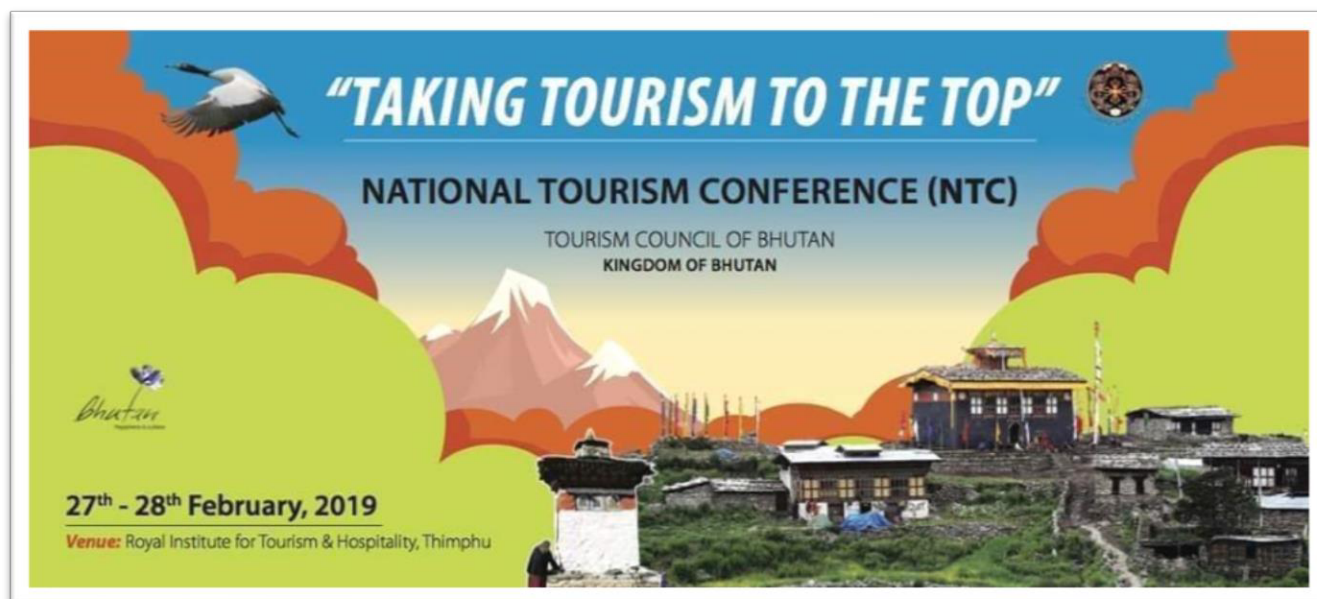
ブータン外貨収入源の第1位は水力発電による売電（インド向け）で、第2位が観光業です。観光に関わる業界は、ホテル、レストラン、土産物店、運輸、ガイド、旅行会社等、とてもすそ野が広く、農業に次ぐ規模の雇用を生んでいます。このように国家にとって大変重要な位置づけにある観光業ですが、課題も山積しています。

雨季や厳冬期は閑散期になる、旅行者の大半は国際空港のあるパロとティンプー・プナカしか訪問せず他地域への波及効果が少ない、旅行会社の過当競争によるアンダーカッティング（廉売）、ごみ問題、不潔なトイレ等。個人的には旅行者の再訪率（9%）の低さも問題と考えています。（比較：[「訪日外国人旅行者の61.4%はリピーター」2017年日本観光庁調査](#)）

National Tourism Conference (NTC)

2019年1月にブータン政府観光局（TCB）の局長が交代しました。ガサ県前知事の新局長は就任後精力的にTCBの改革を進め、わずか1カ月で初めての全国観光会議（National Tourism Conference: NTC）を主催しました。

NTCは、この国の観光業にまつわる課題や目指すべき方向を関係者皆で共有し、協力して取り組んでいこうというのが目的です。会議全体のテーマとして掲げられたのが”Taking Tourism to the Top”。略して3Tまたは5Tとも呼びます。このスローガンを打ち立てたのも新局長で、観光振興をより強化し、産業別国家収入で1位の座を目指そうというものです。



NTCは2月27日と28日の2日間、王立観光ホスピタリティ専門学校（Royal Institute for Tourism & Hospitality: RITH）で開催されました。RITHはTCBの下部組織でホテルやレストラン、旅行会社で働く人材を育成する機関です。

NTCには、ロテ・ツェリン首相、タンビ・ドルジ外務大臣（観光委員会委員長）、ロクナート・シャルマ経済大臣といった政府高官をはじめ、政府機関、中央僧院局、旅行業界（旅行代理店協会、ガイド協会、ホテル・レストラン協会、手工芸品協会、他）、NGOなど、観光に関わるあらゆる人たちが参加しました。200名を収容する会場は満席。熱い議論が交わされました。また、2040年のブータン観光の姿を表現した演劇や、人気ラップ歌手Nalaによるラップソングもあり、真面目な会議でありながら楽しめる要素もたくさんありました。

私は、TCB職員が短期間にこれほどまでの会議を準備し、成しえたことに正直驚いています。普段の勤務態度はおしゃべりしたり遅れて来たりと、とてもおんびりしています。ところがいざというときには、一致団結し役割分担しながら早朝から深夜までバリバリ働いていました。集中力の高さを実感しました。そんな同僚からもっと学び、自分を生かせる道を探って、TCBとこの国の観光振興に貢献していきたいと思いました。



会場外には新たな旅行商品のイメージを展示



ロテ・ツェリン首相（中央）



200名を収容する会場は満席



演劇で2040年の観光の姿を表現



ティータイムとランチはブータンで必須



簡易携帯トイレに見入る参加者

今号ではブータンの観光についてお伝えしました。いつかボランティア活動についても取り上げたいと思っておりますが、活動が軌道に乗るまでもう少しお待ちください。

「ブータン便り」に関するご意見ご感想や、取り上げてほしいテーマなどありましたら、倉敷市国際課にお知らせください。皆様からのフィードバックをお待ちしています。

【Email】 intntnl@city.kurashiki.okayama.jp